

5月8日(月)

おはようございます。

高校一年生は明日から一班が木曜日から、二班が高野山修養行事に行きます。聞きましたら高野山は最高気温が13度、朝は5度くらいということです。きっちり暖かい服を着ていかないと風邪を引きますので気をつけてもらいたいと思います。

昨日一昨日とプライベートですが、私は小豆島の真言宗のお寺に呼んでもらい行ってきました。常光寺というお寺です。小豆島には四国の八十八カ所と同じように八十八カ所霊場があります。

私は小豆島と言えば「二十四の瞳」くらいしか知りませんでした。結構大きなところでしたが、人口四万人だったところが現在三万人を切って高等学校も二つあったのが一つになっており、その中で八十八カ所巡礼などを行っており、お寺の経営というのもなかなか大変なことだなと思いました。

その常光寺というお寺は、ご住職も奥さんも私の大学の先輩でした。東京生まれで東京育ちの奥さんとは恋愛結婚をされて、小豆島に嫁がれたそうです。いまどんな生活をされているのかというと、朝四時十分に起きて、朝の仕事を全部終わったら、山の頂上にある奥の院という洞窟みたいなところに上がって、そこにはお不動さんが奉ってあり、規模は小さいながらもきっちり護摩を焚くのです。他に何も用事がないときは、朝から晩までずっとお勤めをされるのだそうです。もう六十歳になったので、一日中ということはなく、息子さんに後を任せて、今は土日だけはされているそうですが、それまでは暑い日も寒い日も、お参りが一人しかいない日でも、朝四時に起きて夕方までやってこられたそうです。

そうするとやはりお寺は流行るのです。人口も減少して、お遍路さんも外国人が増えて日本人は減っているというけれども、毎日四時に起きて、六時過ぎには山の頂上にあがり、朝一番のお遍路さんをお迎えする。少しでもいなかったら、奥さんは「どうしはったん」みたいなことを言われるから、とにかくずっと続けてきた。もう40年になるそうです。そうしたらやはりお寺は流行るのです。

私は思うのですが、現代は宗教離れとか言われますけれども、やはりまじめにちゃんとやっていたら、人は見ているということなのです。

情報化社会でもなくても、人はちゃんと見ているものです。たった一人しかお参りにこない日でも、朝夕、一日詰めてお勤めされている。私も行かしてもらいました。行っていることは昔ながらのことですが、それでも有り難いと思いましたし、その熱意を強く感じ

ました。

どんなことでもそうですが、やはり仕事は実直にしなくてはいけない。いい加減に適当にやっとうまくいくことも一回二回ならあるでしょうが継続してうまくいくことは難しい。継続してうまくいかせるためにはやはり実直に行う姿勢でなければならないと思うのです。

名門の東京女学館から早稲田大学を出て、東京生まれの東京育ちの奥さんが小豆島に嫁がれてどんな生活をされているのだろうと気になっていましたが、とにかくまじめにきっちり勤めていらっしゃいました。朝四時になったら起きて、お参りがあつたらあつたで、お遍路さんに親切にして夕方四時くらいまでいて、降りてこられるということでした。

最近ほうまくやっただけ効率的に大きな成果を上げるのがいいというよう勘違いをしている者がおりますが、そんなことを継続することはできません。勉強でもなんでもそうですが、継続してうまいことやっただけいいこうと思つたらきっちりやらないといけません。きっちりやらなくてもうまくいくことがあつたとしてもそれが生涯にわたって続くということは基本的にありません。

常光寺ではきっちりとお勤めされているので、人口も減少している中、しんどいお寺がたくさんあるなかでもお参りが絶えないのです。

現代でも、まじめに実直にやるのが一番の基本です。いい加減にやればいい加減なものしか返ってきません。ちゃんとやればちゃんとしたもの返ってくるのです。

かつて日本文学研究者のドナルド・キーンが、戦争が終わったとき、日本文化はもうだめだと言われ、日本のことを研究していた学者がどんどんやめていき自分だけ残った。そして日本に来て夜行で京都にいった。京都の職人さんを見ていたら、掃除でもなんでもきちっとやる、人が見ていようがいまいが関係なくきちっとやる、マッチ箱ひとつをきちっと作るのをみて、いろいろ言われているけど、日本は大丈夫だと思つたということです。

勤勉であるということは、長時間やるということではなく、きちんとやるということだと私は思います。これは時代に関係の無い真理だと思います。清風では、核心に触れるまで努力せよと言いますが、いい加減にやっただけ成果を挙げようということではけっしてありません。このことを諸君も心のどこかに必ず止めて日常実践してもらいたいなと思います。

今朝の話はこれで終わります。

学校長